

令和6年度 運営に関する計画（最終評価）

学校教育目標　自分を大切に 友だちを大切に 夢と希望を語れる学校へ

大阪市教育振興基本計画（R4～R7）
(3つの最重要目標と9つの基本的な方向)

(1) 安全・安心な教育の推進

① 安全・安心な教育環境の実現

- ・いじめ、不登校への対応
- ・防災・減災教育の推進
- ・安全教育の推進

② 豊かな心の育成

- ・道徳教育の推進
- ・キャリア教育、人権教育の充実
- ・インクルーシブ教育
- ・多文化共生・集団育成

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

④ 誰一人取り残さない学力の向上

- ・言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）
- ・「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ・英語教育の強化
- ・全市共通テストの実施・分析・活用

⑤ 健やかな体の育成

- ・体力・運動能力向上のための取組の推進
- ・健康教育・食育の推進

(3) 学びを支える教育環境の充実

⑥ 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の実現

- ・ICTを活用した教育の推進

⑦ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・「働き方改革推進プラン」・教員の資質向上

⑧ 生涯学習の支援

- ・読書活動の推進・学校図書館の活性化

○校内調査「いじめ」「不登校」「暴力行為」の解消
○経年調査・校内アンケート関連項目について、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。

- ・「学校に行くのが楽しい」
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」
- ・「インターネットを使うときの約束を決めている」
- ・「災害の時の自分の身の守り方を知っている」
- ・「将来の夢や希望をもっている」
- ・「たてわり班や登校班でみんなのことを考えて、進んで協力している」
- ・「自分には良いところがある」
- ・「自分から進んでいきたいことをしている」 等

○校内アンケート関連項目について肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。

- ・「学校の勉強はわかりやすい」
- ・「授業中、自分の意見を発表している」
- ・「話し合う活動で、考えを深め広げている」

○学力経年調査における平均正答率（標準化得点）について、どの学年も前年度より向上させる。

○学力経年調査国語科・算数科において市平均正答率7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても減少させる。

○学力経年調査において肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。

- ・「友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」
- ・「理科の学習は好きですか」
- ・「運動やスポーツは好きですか」
- ・「インターネットを使う時間」の減少

○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の対全国比を男女ともに1以上にする。

○授業日において学習用端末を毎日の活用

- ・ICT機器を活用した授業の工夫

○児童の心の状態や日々の状況の可視化。

- ・心の天気やアンケート機能の活用し、把握。

○教員の資質向上に務める。

- ・公開授業を一人1回以上行う。

・研修の積極的実施

○働き方改革の推進

- ・ゆとりの日を週1回設定し、定時退勤

- ・年休取得の推進

○読書活動の推進

大阪市立墨江小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治5年に創立され、令和4年度に創立150周年を迎えた歴史と伝統のある学校であり、また近隣には、「住吉大社」や「熊野街道」がある歴史薫る地域にある学校である。

地域の方々の中には、親子何代かにわたって本校の卒業生という方も少なくなく、学校への思いはあたたかい。人情味のある地域の方々がみんなで子どもを育てていくといった文化が受け継がれているため、地域と学校がともに取り組む行事も多い。

現在、26学級（内特別支援学級6、自校通級学級1）、児童数540名。校内では、1年から6年までの児童でたてわり班を編成し、たてわり集会や植栽活動、墨江子どもフェスティバルなど、様々な取組を行ったり、登校班を編成し集団登校を行ったりし、異学年による活動も盛んである。

令和4年度・5年度の各種調査における結果は、以下のようになっている。学力面では市や全国の正答率を上回りおおむね良い結果といえる。しかしながら、「市平均の正答率の2割を上回る」児童の割合は高い一方で、「市平均の正答率の7割を下回る」児童の割合も高く、二極化の傾向がみられる。体力面では、その学年によっても、種目や男女でのばらつきがあり、一定の傾向はみられない。校内アンケートでは「運動が好き」と答える児童の割合は高く、休み時間にも運動場で遊ぶ児童が多い。

大阪市学力経年調査の質問紙調査では、肯定的な回答が「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに86%、「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに85%、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに81%と市の平均は越えている。が、今後も学校教育目標「夢や希望を語れる学校へ」をさらに推進し、子どもたちがいきいきと楽しく学校生活を送れるよう取組を進める。

一方、「いじめはどんな理由があってもいけない」の問いに78%、「理科の勉強は好きですか」の問いに74%、「読書は好きですか」の問いに71%と肯定的な回答が低いものもあり、本年度重点的に取組を進めていかなければならない課題もある。

教員の資質向上により、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図るとともに、学校生活の中で、自己選択・自己決定の機会を大切にし、自己肯定感を高める取組を作っていく。

体力・運動能力の面では、筋力・柔軟性・瞬発力にかかる種目が課題となっている。今年度も、鉄棒などの活用をさらに図ったり、運動前のストレッチなどを十分に行ったりするとともに、運動やスポーツの楽しさを実感させ自信をもたせる授業づくりを進めていく。

令和4年度・5年度・6年度 全国学力・学習状況調査結果

平均	年度	国語	算数	理科	2科目合計
本校	4年度	68	66	66	134
	5年度	73	70	実施せず	143
	6年度	70	64	実施せず	134
(大阪市)	4年度	(64)	(62)	(60)	(126)
	5年度	(67)	(62)	実施せず	(129)
	6年度	(66)	(62)	実施せず	(128)
(全国)	4年度	(65.6)	(63.2)	(63.3)	(128.8)
	5年度	(67.2)	(62.5)	実施せず	(129.7)
	6年度	(67.7)	(63.4)	実施せず	(131.1)

令和4年度・5年度・6年度 小学校学力経年調査結果

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	墨江	大阪市	墨江	大阪市	墨江	大阪市
国語	74	70	67	65	70	66
社会	70	65	64	62	65	61
算数	72	66	71	67	71	68
理科	72	65	65	63	67	65
英語	89	84	86	82	84	80
総合	75	70	68	66	68	66
標準化得点	102.9		101.2		101.9	

	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
	3年	4年	5年	6年	全体	3年	4年	5年	6年	全体	3年	4年	5年	6年	全体
市平均正答率の7割に満たない児童の割合 %	4.8	11.5	2.1	6.4	6.1	19.4	12.9	11.5	3.2	11.6	12.2	20.8	2.3	6.8	10.5
市平均正答率を2割以上上回る児童の割合 %	40.5	33.3	41.5	24.4	35.3	33.3	35.3	29.9	40.0	34.6	45.1	20.8	40.2	35.2	35.3
話し合う活動自分の考えを深めたり、広げたりできている %	89.3	83.6	77.5	77.5	81.0	84.0	83.9	73.7	84.6	81.6	85.3	72.8	80.4	77.2	78.9

令和4年度・5年度・6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（5年生）

	平均	握力	上体起し	長座 体前屈	反復 横とび	20mシ ヤトルラ ン	50m走	立ち幅とび	ソフトボ ール投げ	体力合計点	
男 子	学校	16.69	16.78	35.83	33.94	35.76	9.71	149.33	—	—	
		15.46	17.00	28.67	40.87	49.89	9.66	149.15	20.70	50.13	
		16.41	18.76	30.63	38.22	43.74	9.6	150.91	20.61	50.02	
	(大阪市)	(16.11)	(18.44)	(33.14)	(38.26)	(42.95)	(9.59)	(148.22)	(20.07)	(50.83)	
		(15.97)	(18.72)	(32.66)	(38.27)	(45.10)	(9.50)	(147.92)	(20.35)	(51.13)	
		(15.78)	(19.09)	(32.72)	(38.56)	(45.05)	(9.52)	(147.96)	(20.45)	(51.13)	
	(全国)	(16.21)	(18.86)	(33.97)	(40.36)	(45.92)	(9.53)	(150.83)	(20.31)	(52.28)	
		(16.13)	(19.00)	(33.93)	(40.60)	(46.92)	(9.48)	(151.13)	(20.52)	(52.59)	
		(16.01)	(19.19)	(33.79)	(40.66)	(46.9)	(9.5)	(150.42)	(20.75)	(52.53)	
女 子	学校	16.04	16.11	41.81	32.43	28.56	9.68	140.46	—	—	
		15.38	18.04	36.79	41.96	44.78	9.85	144.90	11.56	54.36	
		15.39	19.74	35.35	39.07	36.55	9.67	149.76	12.87	54.75	
	(大阪市)	(16.01)	(17.55)	(38.00)	(36.50)	(34.13)	(9.76)	(140.76)	(12.77)	(52.65)	
		(15.88)	(17.85)	(37.44)	(36.49)	(34.75)	(9.74)	(140.20)	(12.69)	(52.67)	
		(15.64)	(18.06)	(37.62)	(36.76)	(34.65)	(9.83)	(139.56)	(12.71)	(52.47)	
	(全国)	(16.10)	(17.97)	(38.18)	(38.66)	(36.97)	(9.70)	(144.55)	(13.17)	(54.31)	
		(16.10)	(18.05)	(38.46)	(38.73)	(36.80)	(9.71)	(144.29)	(13.22)	(54.28)	

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

《基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の推進》

- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90 %以上にする。
- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 82 %以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

《基本的な方向 2 豊かな心の育成》

- 令和 7 年度小学校学力経年調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して「思う」と肯定的に回答する児童の割合が 88 %以上になるようにする。
- 令和 7 年度校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- 令和 7 年度校内児童アンケートにおいて、「自分から進んでいきさつをしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 92 %以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《基本的な方向 3 誰一人取り残さない学力の向上》

- 小学校学力経年調査の国語科・算数科において、市平均正答率の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても毎年減少させる。

《基本的な方向 4 健やかな体の育成》

- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

《基本的な方向 6 教育 DX の推進》

- 校内児童アンケートにおける「学習者用端末等 ICT 機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 92 %以上とする。

《基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》

- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 ※を満たす教職員の割合を97 %以上にする。

《基本的な方向 8 生涯学習の支援》

- 令和 7 年度小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 80 %以上にする。

※基準 2 : 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0 、直近 2~6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0 、をすべて満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

《基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進》

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、**肯定的に回答する児童の割合を88%以上**にする。(R5 86.4%) (R6 85.1%)
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、**最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上**にする。(R5 78%) (R6 84%) (「いじめ肯定」 R5 6.5% R6 2.5%)
- ・校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R5 7人) (R6 8人)
- ・校内児童アンケートにおける「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS（メール・LINE・チャットなど）をしたりするときのルールなどをおうちの人と決めていますか」に対して、**肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加するように**する。(R6.6 93.1%) (R7.1 78.9%)
- ・校内児童アンケートにおける「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、**肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加するように**する。(R6.6 92.4%) (R7.1 94.5%)

「いじめ肯定」
を0に！

《基本的な方向2 豊かな心の育成》

- ・小学校学力経年調査における「将来の夢や希望をもっていますか」に対する**肯定的に回答する児童の割合を87%以上**にする。(R5 85%) (R6 85.2%)
- ・校内児童アンケートにおける「たてわり班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対して、**肯定的に回答する児童の割合を90%以上**にする。(R5 85%) (R7.1 90.5%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、**肯定的に回答する児童の割合を83%以上**にする。(R5 81%) (R6 77%)
- ・校内児童アンケートにおける「自分から進んでいきさつをしていますか」に対して**肯定的に回答する児童の割合を90%以上**にする。(R5 89%) (R7.1 88.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上》

- ・小学校学力経年調査の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度より**3ポイント減少**させる。(R5 3年 19.4 4年 12.9 5年 11.5 平均 14.6)
(R6 3年 12.2 4年 20.8 5年 2.3 6年 6.8 平均 10.5)
- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、**肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を85%以上**にする。(R5 83%) (R6 78.9%)
- ・小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して**肯定的に回答する児童の割合を80%以上**にする。(R5 73.7%) (R6 75.0%)

《基本的な方向4 健やかな体の育成》

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。(R5 男子 0.95 女子 1) (R6 男子 0.95 女子 1.01)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。
(R5 70%) (R6 70.5%)
- ・小学校学力経年調査における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームやSNSをしたりしますか」に対して3時間以上と回答する児童の割合を昨年度より減少させる。(R5 36%) (R6 28.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

《基本的な方向6 教育DXの推進》

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(R5.1~2 11%) (R6.9 94.7%) (R6. 10~12 82.4%)
- ・校内児童アンケートにおける「学習者用端末等ICT機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。
(R6.6 88.5%) (R7.10 88.6%)

《基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》

- ・教員の資質向上に努め、研修会の実施や公開授業を一人一回以上実施する。
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を96%以上にする。(R5 94.6%) (R6 91.7%)

《基本的な方向8 生涯学習の支援》

- ・校内児童アンケートにおける「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5 経年調査 70.8%) (R7.1 80.1%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、88%以上にはできなかった。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は80%以上の目標を達成することができた。しかし、いじめ肯定0%という目標は達成できなかった。毎学期末のいじめアンケート実施後、その都度指導をし、対応を継続して行う。

○令和5年度末に不登校であった児童は登校できるようになった。しかし、今年度新たに不登校となった児童がいる。児童によって実情は違うが、登校を促す、迎えに行く、保護者と教育相談をする等の取り組みを今後も継続する。また、不登校には数えていないが、欠席に数が多い児童が数人いる。欠席数を減らすよう、保護者の協力を得ながら、これからも取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学力経年調査において、4年生以外は平均正答率の目標を達成している。
- 学力経年調査において「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすること」については、肯定的な回答する児童の割合は伸びず、目標を達成できなかった。達成は難しい教科もあり、授業改善が必要である。
- 学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は目標には達しなかったが、スポーツテストの結果者昨年度より伸びている。

【学びを支える教育環境の充実】

- 一人1台学習用端末の毎日の活用は飛躍的に伸ばすことができた。授業での活用は大きく伸びたが、今後家庭学習での活用を進めていく。また、「学習のわかりやすさ」について、教材の取り扱い方法を研修で学んでいく。
- 心の天気やアンケート機能を活用し、日々の児童の心の状況把握に取り組んでいる。
- 教職員意識調査において、働き方改革について肯定的な回答が多いが、個人差が大きい。ゆとりの日を設定についての工夫が必要である。
- 教員の資質向上に務めるため、公開授業を一人1回以上行うという目標は達成した。
- 読書についての取り組みを行ってきたが、児童の読書離れは深刻である。低学年児童は読書が好きだが、中高学年になると、その読書量が急に減ってしまう現状がある。意図的で継続した取り組みを行っていく必要がある。

大阪市立墨江小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】	
<p>《基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小学校学力経年調査</u>における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を88%以上</u>にする。(R5 86.4%) (R6 85.1%) ・<u>小学校学力経年調査</u>における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、<u>最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上</u>にする。(R5 78%) (R6 84%) ('いじめ肯定' R5 6.5% R6 2.5%) ・<u>校内調査</u>において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・<u>校内調査</u>において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R5 7人) (R6 8人) ・<u>校内児童アンケート</u>における「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS（メール・LINE・チャットなど）をしたりするときのルールなどをおうちの人と決めていますか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加</u>するようとする。(R6.6 93.1%) (R7.1 78.9%) ・<u>校内児童アンケート</u>における「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加</u>するようとする。(R6.6 92.4%) (R7.1 94.5%) 	B A 0 B18 C 7 D 0

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号、名称】 <ul style="list-style-type: none"> 学習活動において、自己肯定感が高められるようペアトークからグループトークを取り入れ、話す力、コミュニケーションをとる機会を増やしていく。一方で、話すことやペアトーク、グループ活動が苦手な児童がいる。その児童に対して、授業に参加できている、グループ活動に参加していることに対し賞賛し、個に応じて到達目標の違いを認めていく。(みんなが活躍できる授業づくり・わかる授業づくり) 運動会・作品展・芸術鑑賞会や社会見学や宿泊行事・様々な学校行事を工夫し、充実させるとともに、様々なゲストティーチャーとの体験活動を実施する。 	B A 1 B19 C 6 D 0
指標 : 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 <ul style="list-style-type: none"> いじめやいのちの大切さについて考える授業を道徳などを活用して学期に1回、計画的に実践する。 毎月、「児童理解研修会」をもち、情報共有するとともに、いじめなどの課題に早期に、組織的に対応していく。 「いのち（いじめ）について考える日」の取組を工夫する。 	B A 8 B15 C 4 D 0
指標 : 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。いじめを肯定する割合を0%にする。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】 <ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向児童に対して、家庭や関係諸機関（区役所の子育て相談室、こども相談センター、教育支援センター花園など）と連携する。 状況に応じて、家庭訪問をしたり、学校での居場所の確保をしたりする。 教職員間での情報共有 	B A 2 B19 C 9 D 0
指標 : 校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 校内調査 において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	
取組内容④【基本的な方向番号、名称】 <ul style="list-style-type: none"> 携帯・スマホやSNSについて教員研修を行い、児童に発信する。 PTAによる講演会を保護者向けに年1回程度行い、保護者に啓発していく。 長期休み前に、スマホやゲーム、SNSの使用について話をする。 携帯・スマホなどSNSの使い方の実態に合わせて、発達段階に応じた情報モラル教育を「スマホの使い方教室」などの出前授業や道徳などにより年間1回以上行う。 NHK For School等の動画を活用した学級指導 	B A 3 B12 C 9 D 0
指標 : 校内児童アンケートにおける「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS（メール・LINE・チャットなど）をしたりするときのルールなどをおうちの人と決めていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加するようにする。	
取組内容⑤【基本的な方向番号、名称】	

<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の際に、自分の身を守る方法についてのクイズを作成し、各クラスで取り組む。(ゲストティーチャーの招聘) 防災や防犯、安全に関する校内体制の整備を図るとともに、地域や区役所・消防署等の関係諸機関との連携を進め、避難訓練や防災学習などを年間5回計画的に進める。 <p>指標：「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を年度当初に比べ増加するようにする。</p>	B A11 B15 C 0 D 0
<p>取組内容⑥【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢や希望、目標について考えたり振り返ったりする機会をもつ。 キャリアパスポートによる目標設定や振り返りの活動 友だちのいいところを見つけ、伝え合う活動を学校全体で行うことで、自分のいいところに気がつき、将来の目標を見つけるきっかけ作りを行う。 <p>指標：小学校学力経年調査における「将来の夢や希望をもっていますか」に対する肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。</p>	B A 1 B15 C 8 D 0
<p>取組内容⑦【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペア学年（1・6年、2・4年、3・5年）など異学年での交流活動を、学年に応じて計画し、実施することを年に1回以上行う。 異学年での活動を充実する。（たてわり班活動・クラブ活動・委員会活動・集団登校など） <p>指標：校内児童アンケートにおける「たてわり班や登校班活動でみんなのことを見て、進んで協力することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	A A15 B10 C 0 D 0
<p>取組内容⑧【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会による「あいさつ運動」を年間通して実施する。 道徳や学級活動でのあいさつの意義の指導 <p>指標：校内児童アンケートにおける「自分から進んであいさつをしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	B A 3 B14 C 6 D 0
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 学校生活アンケートの結果において、「学校に行くのは楽しいですか」に対して、前年度から1.3%下がり、目標に2.9%足りなかつたが、おおむね達成できた。下がった要因として、学習が楽しいや理解ができるというだけでなく、人間関係などの悩みなど、原因は多岐にわたっていると考えられる。今後も継続して、一人一人の児童に寄り添えるよう、児童と向き合っていく。</p> <p>② 「いのち（いじめ）について考える日」の取り組みはできたが、いじめを肯定する割合が、2.5%で0%を達成することができなかつた。しかし、「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答した児童は、84%と目標の80%を達成している。</p> <p>③ 不登校児童は8名であったが、学校では不登校傾向児童に対して、家庭や関係諸機関とよく連携した。特別支援学級在籍児童はなかよし学級で対応し、デイサービスで授</p>	

業をチームズで受けられるように進めたり、訪問看護や入院につないだり、保健室や職員室での対応を行ったりと、その時々、個々に対応した。また、不登校児童の対応で児童の家に迎えに行くことで、自力で登校しにくい児童に登校を促すことができた。

生活指導部で不登校児童について、月に 1 回挙げて、教職員間において情報共有した。

- ④ 携帯、スマホや SNS について、児童には、話をしたりプリントで伝えたりなど、その使い方を知らせてきた。出前授業を行い、動画を活用した学級指導も行った。しかし、児童の使用時間は年度当初より増加しており、家庭でのルールについての約束も限界が感じられた。
- ⑤ 計画的に避難訓練や防災学習（2年生・3年生は消防署、4年生はエレベーターの会社や阿倍野タスカルへの社会見学）を行い、クイズも取り組んだ。アンケート結果は 4 月当初に比べ、2.1 % 増加した。
- ⑥ 1 月の校内アンケートでの「将来の夢や希望をもっていますか。」に対する肯定的回答の児童の割合が 85.2 % となり、目標の数値に到達していない。（6年生はキャリア教育を総合で行った。）
1 月の校内アンケートでの「自分にはいいところがありますか」に対する肯定的回答の児童の割合が 77 % となり、目標の数値に到達していない。（学校全体でいいところみつけを行った。）
- ⑦ 異学年での交流活動は学年によってかたよりがある。
1 年と 6 年、1 年と 2 年、3 年と 6 年、4 年と 2 年、5 年と 3 年
1 月度の校内児童アンケートにおける「たてわり班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 90.5 % と目標に到達することができた。
- ⑧ 1 月の校内アンケートでの「自分から進んであいさつをしていますか」に対する肯定的回答の児童の割合が 88.2 % と目標の数値には到達していないが、代表委員会による「あいさつ運動」は取り組んでいる。これからも継続的に取り組んでいく。

次年度への改善点

- ③ 児童理解研修会で、今後の対応について手立てや目標を考えていく。特別支援学級在籍児童ではない不登校児童に対する対応を考えていく。さらに、不登校児童に対する担任の意識について考えていき、学校として対策に取り組んでいく。
- ④ 携帯、スマホや SNS の使い方については、児童への指導、家庭への啓発を継続して行う。
- ⑥ 生活科や総合的な学習の時間でのキャリア教育を継続的に取り組んでいく。アンケートの文言を再考する。
- ①②⑤⑦⑧は、これからも継続的に取り組んでいく。

大阪市立墨江小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 《基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上》 ・ <u>小学校学力経年調査</u> の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度より3ポイント減少させる。 (R5 3年 19.4 4年 12.9 5年 11.5 平均 14.6) (R6 3年 12.2 4年 20.8 5年 2.3 6年 6.8 平均 10.5) ・ <u>小学校学力経年調査</u> における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を85%以上にする。 (R5 83%) (R6 78.9%) ・ <u>小学校学力経年調査</u> における「理科の学習は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (R5 73.7%) (R6 75.0%)	B A 1 B17 C 8 D 0
《基本的な方向4 健やかな体の育成》 ・ <u>全国体力・運動能力、運動習慣等調査</u> において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。 (R5 男子 0.95 女子 1) (R6 男子 0.95 女子 1.01) ・ <u>小学校学力経年調査</u> における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。 (R5 70%) (R6 70.5%) ・ <u>小学校学力経年調査</u> における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームやSNSをしたりしますか」に対して3時間以上と回答する児童の割合を昨年度より減少させる。 (R5 36%) (R6 28.8%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号、名称】 ・算数科の授業研究を計画的に進め、「みんなが活躍できる授業づくり」と「基礎・基本の定着を図る授業づくり」を図る。 ・既習事項を教室や廊下、階段など児童の目に触れるところに掲示し、視覚的な定着を図る。 ・宿題や小テストの定着度を確認し、学年で共有する。 ・学習者用端末（Navima）やドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。	B A 7 B15 C 4 D 0
指標： <u>小学校学力経年調査</u> の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度	

	より3ポイント減少させる。
取組内容②【基本的な方向番号、名称】	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方を伝えるための、話型を学年に応じて掲示する。 ・授業のふりかえりを書く時間を増やし、自分の考えを文章にする活動に慣れる。 ・授業の中で、ペアや少人数での意見交換の機会を設け、自分の考えを伝えることができるようとする。 ・学習者用端末や大型ディスプレイを活用して、互いの考えを伝えあう学習活動を工夫する。 	B A 2 B16 C 7 D 0
指標：小学校学力経年調査において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 83%) (R6 78.9%)	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】	
<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察などを通して科学的に問題解決する力を養うための理科の授業を工夫するとともに、出前授業などの体験学習を取り入れることにより児童の理科に対する興味・意欲を高める。 ・教科書の内容だけにとらわれず、そこからつながる遊びや生活の中で役立っている事も授業の中に取り入れる。 	B A 3 B16 C 7 D 0
指標：小学校学力経年調査において「理科の学習は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向番号、名称】	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が達成感を味わえるような体育科の授業づくりの工夫 ・個に応じた目標設定やルール設定等の工夫により、運動が苦手な児童も意欲的に取り組める授業づくり ・体育科の授業を工夫し、遊具や器具・用具を活用したり、準備運動を工夫したりして、筋力や柔軟性を高めるようにする。 ・なわとびタイムを設けるなどして、巧緻性を高める運動を楽しみながらできるようにする。 ・なわとびやマラソンのがんばりカードの活用 ・休み時間等の学級遊びの工夫（運動嫌いな児童への働きかけ） 	B A 4 B14 C 9 D 0
指標：全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。	
指標：小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。	
取組内容⑤【基本的な方向番号、名称】	
<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の取組として、早寝・早起き・朝ごはん・ゲームなどをするときのルールチェックアンケートを行い、睡眠時間を確保することや自分の目を守ることの大切さを伝える。（6月、11月） 	A A10 B 9

<p>・ NHK For School 等の動画を活用した学級指導</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームや SNS をしたりしますか」に対して 3 時間以上と回答する児童の割合を昨年度より減少させる。経年（R5 経年 36%）校内アンケート（R6 28.8%）</p>	C 5 D 0
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 計画通り進めることができた。授業の初めに基礎の確認を取り入れ、廊下階段に単元の内容を掲示したり、Navima やドリルを活用したりして基礎基本の定着を図ってきた。</p> <p>② 「○○だと思います。なぜなら～だからです」などの話型を提示することで、全員が自分の考えを持つことができてきている。学校生活アンケート 10 月分において「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合が 88% であった。ただ、経年テスト後のアンケートでは 78.9% であった。高学年になるにつれ、肯定的な回答を持ちにくい児童が増えていることが分かった。</p> <p>③ 「理科の学習は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合が 73.7% (R5) から 75.0% (R6) に少しではあるが上がった。体験的な活動を多く取り入れることで、「実験が好き」「理科が好きになった」という児童が増えてきた。</p> <p>④ 体力合計点の対全国比の割合を女子は 1 を達成。男子は 0.95 と未達であった。小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な回答の割合は今年度 70.5% と前年度 (70%) を上回ったが、目標の 73% は下回った。今回の結果に至った要因の一つとして、運動以外に興味を持つ児童が増えたことだと考えられる。運動に興味を持ってもらうために、運動が好きな児童やそうでない児童にも「できた」を感じられる授業の工夫が必要であると考える。</p> <p>⑤ 6 月にアンケートを実施し、その結果をうけて、目の健康や睡眠への影響についてのパワーポイントを作成し、発育測定指導時に養護教諭が保健指導をした。保健委員会を中心に、その結果を生活リズムだよりとして作成し、配布の準備を進め、発行した。児童朝会や学校放送で、インターネット使用のルールや生活リズムについて啓発することで、児童の意識が高まるようにした。昨年度より、3 時間以上動画等を見ている児童の割合は減ったため、児童の意識は高まったといえる。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ①②③については、これからも継続的に取り組んでいく。 ・ ④質問の結果から、運動は大切であることを児童は理解しているため、児童が達成感を得る又は記録に挑戦したり競い合ったりする運動ができる場を設定する。運動習慣等調査において、柔軟性や投力の向上を目指す必要がある。準備体操として屋外ではジャギー、屋内では柔軟体操を取り入れて、運動能力の向上を目指す。 ・ ⑤年間 2 回のアンケートを実施し、結果をもとに、児童に啓発した。高学年になると、なかなか生活リズムは変わらないが、特に中学年は、養護教諭の話を自分の生活と重ねてきいていた印象を受けた。小さい学年の時から、話を伝えていくことの重要性を感じた。引き続き、取り組んでいきたい。NHK For School をつかった学級指導も計画したが、良い教材は見つからなかった。 	

大阪市立墨江小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】	
《基本的な方向 6 教育 DX の推進》	
<ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60 %以上にする。(R5. 1~2 11%) (R6. 9 94.7%) <u>校内児童アンケート</u>における「学習者用端末等 ICT 機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90 %以上とする。 (R6. 6 88.5%) (R6. 10 88.9%) 	B A 6 B17 C 1 D 0
《基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》	
<ul style="list-style-type: none"> 教員の資質向上に努め、研修会の実施や公開授業を一人一回以上実施する。 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 96 %以上にする。(R5 94.6%) 	
《基本的な方向 8 生涯学習の支援》	
<ul style="list-style-type: none"> <u>校内児童アンケート</u>における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 75 %以上にする。 (R5 経年調査 70.8%) 校内アンケート(R7. 1 80.1%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号、名称】 <ul style="list-style-type: none"> 心の天気を毎朝入力するようにする。 学習者用端末を朝机の横に下げ、授業での活用を進め、帰りに保管庫へ戻すルーティン作り Teams の機能を使ったオンライン学習の機会を設け、緊急時にはそれを活用して学びの継続を図る。 「まなびのポータル」(心の天気など) やスクリーニングシートの活用を図り、情報の共有、児童理解に努める。 ICT 支援員の授業の中での活用 授業に ICT 機器を毎日 1 回活用する (デジタル教科書や動画教材を大型テレビに映したり、SKYMENU を活用して意見を共有したりする。) 休業中等の ICT 活用研修への積極的な参加 	B A 5 B17 C 0 D 0
指標 : 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、 年間授業日の 60 % 以上にする。	
指標 : <u>校内児童アンケート</u> における「学習者用端末等 ICT 機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して 肯定的に回答する児童の割合を 90 %以上 とす	

<p>る。</p> <p>取組内容②【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師を年2回程度招聘する。 校内での授業研究会や学力向上支援チーム事業による研修、外部研究会への参加などを通して、教員の指導力の向上に努める。 メンター研修の活用（授業交流など若手教員の指導を推進） 	A A10 B 9 C 2 D 0
<p>指標：教員の資質向上に努め、校内研究の推進、研修会の実施、公開授業を一人一回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い時刻のセットに努める（教職員の意識改革） 「ゆとりの日」の定時セット 行事や会議、仕事内容の精選に努める。 	B A 2 B12 C 7 D 0
<p>指標：第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を96%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号、名称】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週に2回「読書タイム」の時間を設け、確実に実施する。 (水・金の昼10分間) 「すみえ小 読書カード」を配付し、本を身近に感じる環境を作る。 「読み聞かせ」活動や本の紹介活動の推進（図書委員会・ボランティア・学校司書・住吉図書館からの） 図書館開放の回数を確保し、本に触れる機会を増やす。 児童が興味のある本の購入や区の図書館の活用により、学級文庫の充実を図る。 住吉図書館からの集団貸し出しにより身近なところに本のコーナーを設置 	B A 0 B15 C 1 D 0
<p>指標：校内児童アンケートにおける「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① ほとんどの児童が心の天気を入力できている。朝の放送や教員の呼びかけによって、児童一人ひとりが入力する習慣がついてきた。</p> <p>デジタル教科書や大型テレビが全学級に導入されたことにより、ICTを活用した授業がより行われるようになった。また、公開授業や研究授業、ICT支援員の研修によりSKYMENUの活用方法を教員が学んだ。しかし、校内児童アンケートの結果が目標の90%を下回った。今後、それぞれの授業で効果的なICT活用をしていくことが課題である。</p> <p>人権の取り組みでは、住吉図書館から集団貸し出しを行う予定にしている。</p> <p>② 外部講師をすでに2回以上お願いしていて、今後も経験豊富な講師を選び、教員の資質向上を維持する。</p> <p>④ 一人一人の授業時間や役割が増えており、働き方アンケートでも改革が進んでいないと感じている人もいる。</p> <p>⑤ 「読書タイム」について、今後も行っていく。</p> <p>「すみえ小 読書カード」については、50冊に達成すると賞状をもらうことで他の児童にも読書をするきっかけを作れていると考えられる。</p> <p>「読み聞かせ」は、2学期に行った。学年により反応が様々あったため、来年度は中学年までにしたいと考えている。</p>	

学級文庫について、家で使わなくなった本を提供していただくことで、充実しつつある。

人権の取り組みでは、住吉図書館から集団貸し出しを行った。

図書室での本の置き場所を設定し、本を手に取って読む機会が少しずつ増えている。

次年度への改善点

- ①SKYMENU をまだ十分に使えていないため、研修会を開き、使い方や授業例を伝え、教員側の使用率を伸ばす。
- ②引き続き、講師を招聘する。
- ⑤ 引き続き呼びかけを続けていく。
ゆとりの日の意識付けを再度行う。
- ⑥ 読書週間や人権週間などの際に、放送で呼びかけて本に触れる機会を増やす。
古い学級文庫を処分し、新しく学級文庫・学年本棚を設定し、本を身近に感じる環境を整していく。

